船橋市郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館館報

みゅーじあむ・船橋

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site Park Museum News
みゅーじあむ・船橋 vol.14

令和２年３月

日本最古級かつ最小級のバイオリン形土偶
（飛ノ台史跡公園博物館で展示中）

第14号

博物館ニュース [2]
船橋遺跡風景今昔 4　～古和田台遺跡～ [3]
船橋の明治・大正・昭和　年越しの日に「鬼は外」?? [4-5]
貝塚、その日そのひ 3　イタリアの貝殻文土器 [6-7]
インフォメーション [8]

博物館ニュース

この項では、郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の企画展や事業について、紹介しています。
今回は、令和元年度に両館で開催した企画展を取り上げます。

郷土資料館　企画展「船橋と新京成」

令和元年11月1日㈮から12月15日㈰まで、企画展「船橋と新京成」を開催し、新京成電鉄と沿線地域の歴史について紹介しました。

展示室では、新京成電鉄の路線の前身である鉄道第二連隊の絵はがき（当館蔵）や、廃止された藤崎台駅の駅名看板（個人蔵）、改札鋏（新京成電鉄株式会社蔵）等を展示しました。また、昭和30年代のパン焼き器（当館蔵）や、昭和36年頃の高根台団地の木製浴槽（当館蔵、UR都市機構提供）等の生活用具も展示し、アンケートでは「生活が垣間見える展示が面白かった」といったご感想をいただきました。

ミュージアムコンサートのようす
左：若山花琳 氏　右：陣内幸恵 氏

11月10日㈰には、ミュージアムコンサートを開催しました。陣内幸恵さん、若山花琳さんのお二人によるフルート・オカリナの音色が展示室に響き渡り、80名以上のお客様が生演奏を楽しみました。「コンサートがきっかけで、初めて郷土資料館に来た」という方も多く、新たなお客様へのアピールにつながりました。

飛ノ台史跡公園博物館　企画展「千葉県北西部地区文化財展～海と生きる～」

令和元年11月2日㈯から12月15日㈰まで、1階ギャラリーで「海と生きる －自然の恵みと人の知恵－」を開催し、県北西部にある10市（我孫子、市川、柏、鎌ケ谷、流山、習志野、野田、船橋、松戸、八千代）の文化財を展示しました。この地域の人々は古より、東京湾、そしてかつて存在した古鬼怒湾という2つの海と深く関わって生きてきました。そこで今回の文化財展では、各市が海をテーマにした考古資料や古文書、最新の調査結果などを展示しました。

船橋市は、縄文時代早期（約10,000年前）と縄文時代前期（約6,000年前）に人々が暮らしていた「取掛西貝塚」に関して、当時の人々が食べた海の幸を中心に展示しました。取掛西貝塚は、現在の飯山満町、米ヶ崎町にまたがる台地上にあり、日本最古（約10,000年前）の動物儀礼（動物の頭蓋骨や角を使ったお祭り）の跡が見つかったことでも有名です。

他にも縄文人の塩づくりについて製塩土器などを展示した松戸市、県北西部に20以上の醤油醸造蔵があったことがわかるように江戸時代の醤油番付を展示した野田市など、各市による趣向を凝らした展示が見られました。また、ハンズオン（実際に触れる）展示もあり、特に子供たちが太古の魅力を肌で感じていました。

各市による解説会の様子

船橋市外の方も多く、当館に初めてご来館いただいた方も大勢いました。アンケートでは、「縄文の海進が図で示されて分かりやすかった」や「地域別になっていて分かりやすい展示だった」「船橋に限らず北西部地域が海と関わっていたことがよく分かった」などのご感想をいただきました。

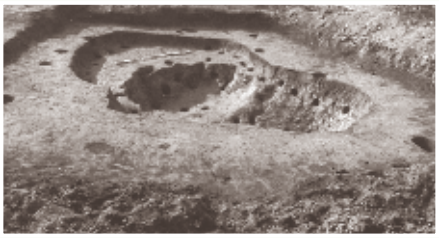
上記以外にも両館で企画展を実施しました。今後も、多くの方々にご来館いただけるよう、より魅力的な企画展にしていきます。

船橋遺跡風景今昔 4

～古和田台遺跡～

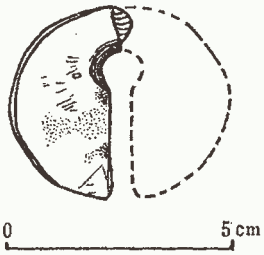
古和田台遺跡のあらまし

古和田台遺跡は新高根１丁目、現在の高根東小学校の校地を中心として広がる、縄文時代前期（約6,000年前）の遺跡です。昭和46年（1971）に発掘調査が行われました。竪穴住居跡が８軒見つかりました。赤く彩色された土器、土製の玦状耳飾、石の矢じりなどが出土しています。

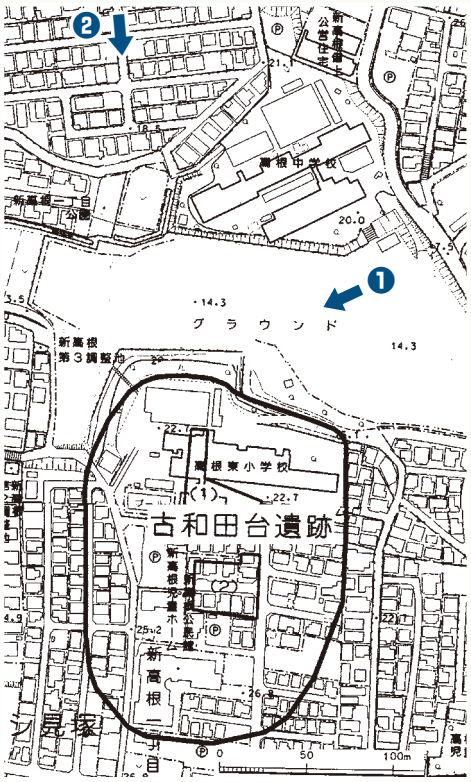


竪穴住居跡

彩色土器　飛ノ台史跡公園博物館で展示中

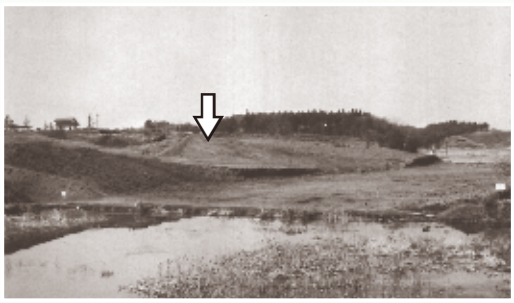


土製の玦状耳飾
破片が９点出土



古和田台遺跡周辺今昔風景　❶❷は上の地図上の位置

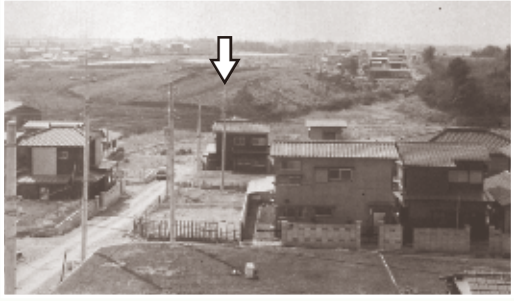
❶



昭和46年（1971）　北側斜面下の水田跡地より遺跡方面を見る。⇩は遺跡発掘地

令和元年（2019）12月の同位置　水田跡地は高根東小、高根中のグラウンドになっている。斜面には樹木が生い茂っている。

❷

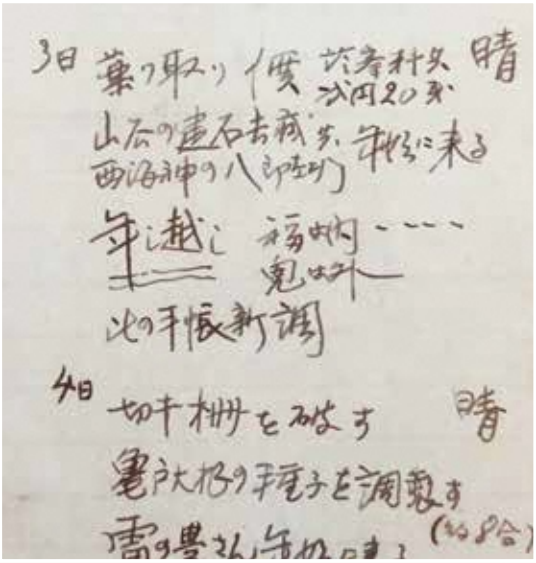


昭和46年（1971）　北側台地上の住宅地より遺跡方面を望む。

令和元年（2019）12月撮影。住宅がさえぎるため、同位置よりわずかに東側から。

（参考）『古和田台』（船橋市教育委員会、1971年）　『古和田台遺跡』（船橋市教育委員会、1973年）　（Y.M）

年越しの日に「鬼は外」??
― 船橋市域における二月正月と一月正月 ―



「大正拾四年度日誌」（船橋市郷土資料館所蔵）
※本稿での使用について、資料寄贈者から許可を得ています。

上の写真は、平成29年(2017)に郷土資料館が寄贈を受けた、東中山の資料群に含まれる日記の一部です。本文冒頭に「大正拾四年度日誌」と書かれたこの資料には、当地（大正14年当時は葛飾村二子）で暮らしていた寄贈者のご先祖の見聞が、大正14年（1925）2月1日から12月31日まで記録されています。

さて、写真で示した2月3日の部分には、「年し越し」という4文字の右側に、節分の豆まきの時に発する「福は内」「鬼は外」という言葉が書かれています。

二重線で強調しているくらいなので、年越しの日を間違えたとは思えません。今から95年前の船橋市域で生活していた筆者は、なぜ、2月3日を年越しと意識したのでしょうか。

1　太陽暦と正月

日本で、1年365日・1日24時間の時刻制度が運用されるようになったのは、明治6年（1873）1月1日からです。それまでは、月の満ち欠けを基準とする太陰太陽暦が採用されていましたが、明治5年11月9日に発布された太陽暦採用の詔書により、明治5年12月2日の翌日が明治6年1月1日となり、西洋の暦との一致が図られました。

しかし、急な暦法の変化に誰もが対応できた訳ではありません。これまでの研究では、都市部に比べて農村部などでは、旧暦に基づく生活が続く場合が多かったことが明らかにされています。

また、平成13年(2001)に船橋市が発行した『船橋市史　民俗・文化財編』では、第七章「年中行事」の中で、正月の行事と節分について説明されています。

まず、正月については、新暦による一月正月は町場を中心に比較的早くから切り替えられたが、農業地区では戦後しばらくまで二月正月が慣例だった(255頁)と記されています。そして、二月正月のままだった理由について、薪や粗朶・落ち葉など1年分の燃料を山で確保するため忙しい1月の後に正月をした方が、ゆっくり休めたと書かれています。

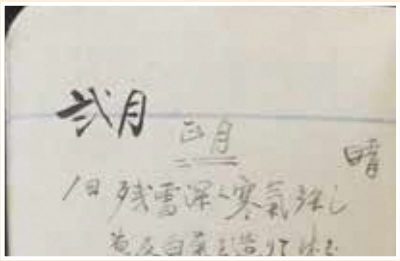
また、2月3日の節分については、日蓮宗の家で鬼子母神の信仰から鬼を払わずに「福は内」とのみ唱える場合が多いこと、年越しと考える習慣があり、年越しそばを食べていたところもあることが記されています(303～304頁)。

2　大正 14 年の日記を読み解く

こうした先行研究を踏まえて、先程紹介した大正14年の日記を読み解いてみましょう。

まず、豆まきのかけ声に注目すると、「鬼は外」が含まれています。二子は、日蓮宗の多聞寺の檀家も多い地域ですが、筆者の家は、当時、浄土宗の寺院の檀家だったそうなので、『船橋市史』の記述と矛盾しません。また、2月3日の「年し越し」という記載も、『船橋市史』を読むと納得できます。

そして、筆者は、「弐月」の右下に「正月」と書いています。日記を2月から書き始めているように、大正14年時点の筆者は、2月を年度の変わり目と意識しており、筆者の周りでも、旧暦に由来する二月正月が一般的だったと推察されます。



弐月　　正月

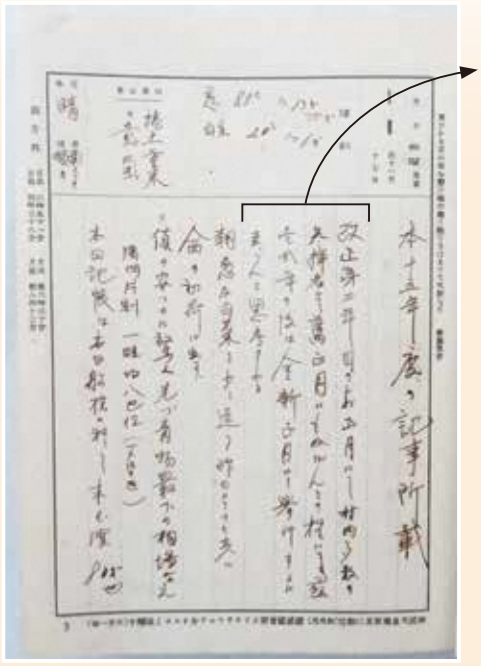
1日　残雪深く寒気強し　　晴
　　葱及白菜を造りて休む
　　（略）

2日　消防出初式　　晴
　　葱 23 白菜 3 籠初荷に
　　出す（略）

3　他の年の日記では？

ところで、『船橋市史』の記述からは、戦前の市域において一月正月と二月正月が混在していたことはわかりますが、「町場」と「農業地区」より細かい地域差や時期による変化はわかりません。そこで、同じ筆者による他の年の日記を見てみましょう。

大正15年の日記は、既製品の日記帳である博文館の『当用日記』が用いられています。そして、日付・曜日が既に印刷されている各ページに、毎日の天気・野菜の相場・出来事などが記されています。手帳を使っていた大正14年までと違い、1月始まりになっているのです。



改正第二年目のお正月にて村内多数の参拝者にて旧正月にも及ばんとの程にて茲（ここ）壱弐年の後は全く新正月にて挙行するに至らんと思考される

1月1日の記事には、この日記帳について、「本日船橋に於て求む価80銭也」と書かれています。また、写真と翻刻で示した部分からは、「村内」つまり葛飾村に、一月正月を意識する多数の参拝者がいたこと、筆者が、数年のうちに二月正月から一月正月への移行が進むと認識していたことがわかります。

4　他の人物の日記では？

最後に、他の人物が同じ頃に書いた日記でも、正月の記述を確認しましょう。

郷土資料館に収蔵されている、旭町（当時は塚田村後貝塚）の人物がノートに書いた日記を見ると、必ずしも1冊1年度という使い方をしている訳ではありませんでした。ただし、昭和2年（1927）は2月1日に「神詣」、昭和3年は2月2日に「お寺へ年始に行き（略）」と書かれています。この日記の筆者の周りは、昭和になっても、完全には一月正月に移行していないようです。

船橋市域における一月正月への移行というテーマは、まだまだ調べる余地がありそうです。今後、日記以外の資料にも対象を広げて、発見したことを、展示・講座等で皆様にお伝えしたいと考えています。

（O.M）

—イタリアの貝殻文土器—

はじめに

飛ノ台史跡公園博物館では、令和元年（2019）7月21日～9月1日にイタリア文化会館とイタリアのパドヴァ市の後援のもと、第19回縄文コンテンポラリー展「遺跡のアート劇場 ～縄文から古代イタリアそして現代へ～」を開催しました。これは、縄文文化よりインスピレーションを受けたアーティストたちによる現代アート展です。今年度の展覧会のテーマは「縄文文化」と「古代イタリア」です。このテーマは一見、関係がなさそうですが、ともに先史、古代の遺跡が多く、さらに貝殻を用いて土器の文様を描く文化が同時期にみられるという共通点があります。

我が国とイタリアとは平成28年(2016)に日伊修好通商条約を締結して150年を迎えることから、日伊国交150周年を記念する行事が各地で行われました。考古学的には平成26年(2014)、文京区の切支丹屋敷跡地でシドッチ神父（1668-1714）の遺骨が発見されるなど江戸時代の遺跡からもイタリアとの関係がみられます。また近年、地質時代の名前を検討する際に千葉県のチバニアン(千葉セクション)の対抗馬として競っていたモンタルバーノ・イオニコ *Montalbano Jonico* とヴァレ・デ・マンケ *Valle di Manche* は、イタリアの南部にあります。

第１図　本文中の主な遺跡や地点

さて、先史時代におけるイタリアでは、貝殻を用いて土器の文様を描く文化がみられます。偶然にも当館の地中に眠っていた飛ノ台貝塚の土器も、同様の方式でつくられていました。このイタリアの先史時代にみられる土器はカルディウム土器、飛ノ台貝塚にみられる土器は貝殻条痕文土器と呼ばれ、ともに約8,000年前の土器です。

イタリアの先史時代

イタリアの歴史と言えば、多くの人は、ポンペイ遺跡や古代ローマの遺跡を想像するでしょう。しかしながら、イタリアのポンペイ遺跡は今から約2,000年前、日本の歴史区分では弥生時代にあたる、比較的新しい時代の遺跡です。イタリアの歴史には、それ以前の遺跡が多数ありますが、日本に住む我々は、それを知る機会はほとんどありません。

イタリアも日本同様に約7,000～6,000年前は、現在よりも温暖化しており、海面も上昇していました。日本では内陸の貝塚を例として、かつて起きた海面上昇について学びますが、イタリアの初等教育課程では、「ピサの斜塔の近くまで海が来ていた」と習うとのことです[註]。しかし不思議なことに、イタリアでは貝塚はまだみつかっていません。

カルディウム土器 Cardium Pottery

イタリアの遺跡に貝塚はありませんが、みつかる土器には貝殻の痕跡があります。この土器はカルディウム土器と呼ばれます。この土器を使用するカルディアル文化期は、刻印土器文化期とも呼ばれ、現在のアドリア海からイタリア半島を経由してポルトガルの大西洋側までみられます。近年では、地中海北東部の黒海北部地域に位置するウクライナのサムチンツィにおいても同時期に同様の土器がみつかっています（Gaskevych 2011）。ヨーロッパザルガイ *Cerastoderma edule* がかつて呼ばれていた学名から、土器名のカルディウムCardiumがつけられました。ただし現在は、ワダチザルガイ

Ca.costatum の仲間に、カルディウムという学名がつけられています。

文様の付け方は、貝殻を巧みに用いた、様々なものがあります。飛ノ台貝塚と同じ条痕のある土器や、貝殻の縁辺（腹縁）を押し付けた土器があります。

貝殻条痕文土器

飛ノ台貝塚でみつかる土器は、貝殻で土器表面に条痕をつけたことから貝殻条痕文土器と呼ばれます。この条痕は、ハイガイ *Tegilla granosa* と言うアカガイの仲間を用いて付けられました。この土器は、約8,000～7,000年前の縄文時代早期後葉に関東でみられる土器です。

約11,000～7,000年前の縄文時代早期の土器は、大きく3つに分けられ、前葉の撚糸文、中葉の沈線文、後葉の貝殻条痕文があります。縄文時代早期の船橋市内においては、国史跡を目指して調査中の取掛西貝塚で前葉の撚糸文土器、飛ノ台貝塚で後葉の貝殻条痕文土器などがみられます。

おわりに

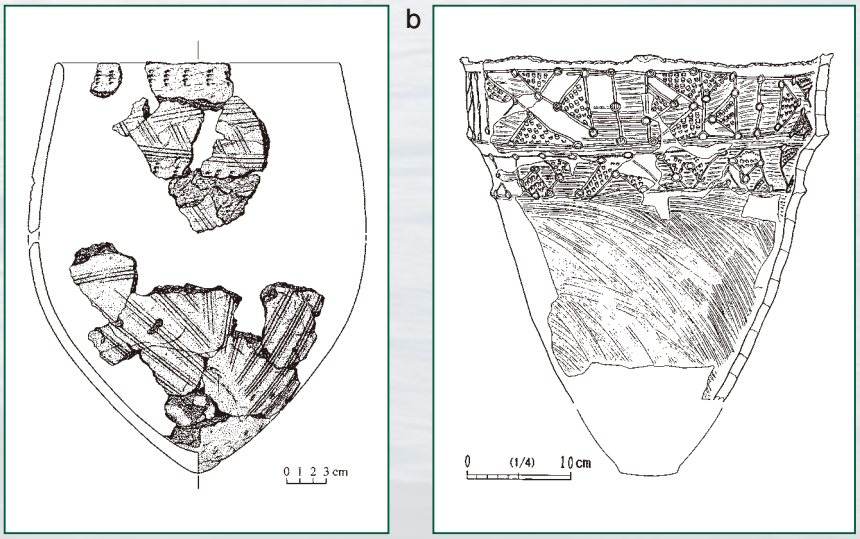
今回は、博物館で展示する飛ノ台貝塚の土器と同じく、貝殻で文様をつけたイタリアの土器を紹介しました。当然ながら、船橋のある日本列島とイタリアのある地中海では文化的な繋がりはなく、偶然、太平洋と地中海でよく似た土器をつくり、生活していました。両地域ともに、なぜ土器に貝殻で文様を描いたのか、考古学ではわかりません。もしかしたら、恵みをもたらす海に対して何らかの思いを込めて、貝殻で土器に文様を付けたのかもしれません。本稿によって、飛ノ台貝塚と同じ先史時代のイタリアの遺跡にも興味を持って頂ければ幸いです。

第1表　日本とイタリアの主な時代区分

年前	イタリアの時代区分	日本の時代区分など	船橋の主な遺跡など
2,000	ポンペイ遺跡など	弥生時代	夏見台遺跡
3,000	略	縄文時代後晩期	金堀台貝塚
5,000		縄文時代中期	高根木戸遺跡
6,000		縄文時代前期	飯山満東遺跡
8,000	**刻印土器文化期（カルディウム土器）**	**縄文時代早期後葉（貝殻条痕文土器）**	**飛ノ台貝塚**
10,000	略	縄文時代早期前葉（撚糸文期）	取掛西貝塚
11,000			小室上台遺跡のバイオリン形土偶
12,000	カステルビアン文化期	縄文時代草創期	内堀込遺跡
17,000	続グラヴェティアン文化期	後期旧石器時代	向　遺跡
120,000～770,000	モンタルバーノ・イオニコヴァレ・デ・マンケ	Chibanian チバニアン	地磁気逆転

Nicoletti（2003）を基に作成

註　縄文コンテンポラリー展に来館したイタリア人親子の御教示による。



第2図　貝殻で文様を付けた約8,000年前の土器
a サムチンツィ遺跡出土の土器（Gaskevych 2011）
b 飛ノ台貝塚の土器
表面にみられる条は貝殻によりつけられた文様

参考文献

Gaskevych, D. (2011) 'A new approach to the problem of the Neolithisation of the North-Pontic area: Is there a north-eastern kind of Mediterranean Impresso pottery?' "Documenta Praehistorica" XXXVIII, 275-290

Kazaoka, O. et al. (2015) 'Stratigraphy of the Kazusa Group, Boso Peninsula: An expanded and highly-resolved marine sedimentary record from the Lower and Middle Pleistocene of central Japan' "Quaternary International" 383, pp. 116-135.

Nicoletti, F. (2003) "Percorsi nella sicilia preistorica"

インフォメーション

郷 土 資 料 館

※薬円台公園内のSLの運転席は、毎週土曜日・日曜日・祝日（年末年始・雨天時を除く）の午前10時～午後4時に公開しています。

【令和2年9月までの行事予定】

期　　日	行　　事　　名	会　　場
2月1日(土)～5月10日(日)	企画展　船橋の「これ、知りたい！」 －先生がもっと知りたいこと－	郷土資料館 3階　第2展示室
6月13日(土)	地域史講座「永井荷風と船橋」 ※葛飾公民館と共催	葛飾公民館 （船橋市西船3-6-25-201） 京成線　京成西船駅　徒歩7分
7月7日(火)～9月22日(祝)	日本大学理工学部学芸員課程MA展示 「船橋の自然み～つけた」	郷土資料館 3階　第2展示室　他

いずれも、詳細は『広報ふなばし』でお知らせいたします。
都合により、日程・内容が変更になる場合があります。

協力：
船橋市華道連盟

飛ノ台史跡公園博物館

※飛ノ台史跡公園博物館では、毎週土曜日・日曜日・祝日の他、小・中学校の夏休み・冬休み・春休み期間中に、小学校4年生から大人向けのワークショップを実施しています。
※詳細は毎月1日号の『広報ふなばし』でお知らせいたします。

【令和2年9月までの行事予定】

期　　日	行　　事　　名	会　　場
5月30日(土)	バスで訪ねる博物館見学会	（未定）
7月19日(日)～8月30日(日)	第20回縄文コンテンポラリー展	飛ノ台史跡公園博物館

いずれも、詳細は『広報ふなばし』でお知らせいたします。都合により、日程・内容が変更になる場合があります。

ご利用案内・交通案内

郷 土 資 料 館

開館時間　午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
住　　所　船橋市薬円台4－25－19
電　　話　047-465-9680
F A X　047-467-1399
Eメール　kyodo@city.funabashi.lg.jp

交通案内

新京成線　習志野駅下車徒歩10分

JR津田沼駅北口から
船橋新京成バス・ちばレインボーバスで
「郷土資料館」下車徒歩2分

飛ノ台史跡公園博物館

開館時間　午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入 館 料　一般110円（団体20名以上70円）
児童生徒50円（団体20名以上30円）
市内在住中学生以下　無料
住　　所　船橋市海神4－27－2
電　　話　047-495-1325
F A X　047-435-7450
Eメール　tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン
新船橋駅下車徒歩8分
京成本線　海神駅下車徒歩15分
東葉高速線　東海神駅下車徒歩12分

船橋新京成バス
JR船橋駅北口から建鉄循環
「海神中学校前」下車徒歩1分

休館日カレンダー

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

☐ は郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館休館日　※都合により、休館日が変更になる場合があります。

発行：令和2年（2020）3月31日　船橋市教育委員会　郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館
表紙写真　小室上台遺跡出土のバイオリン形土偶　約11,000年前につくられたもので、高さ2cm　神保君雄氏撮影